



1月えんだより

2024年度
幼保連携型認定こども園
神戸女子大学附属高倉台幼稚園
園長 木村 奈帆子

明けましておめでとうございます

新しい年「巳年」が始まりました。「巳」は蛇のイメージから「再生と変化」を意味しています。脱皮し、強く成長する蛇は、その生命力から「不老長寿」を象徴する動物、または神の使いとして信仰されてきました。2025年は「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表しているそうです。柔軟性と直感を大切に、新たな可能性を切り開きましょう。

今年も教職員一同、子ども達の輝く未来のために、家庭や地域社会と手を携え、幼児教育や子育て支援に取り組んでまいりたいと思います。お子様お一人お一人にたっぷりと愛情を注ぎ、心も体もたくましく育つよう寄り添い、支えてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年度の最終学期である3学期は、慣れ親しんだクラスの中で、自己の力を伸び伸びと発揮するとともに、友達と協同して生活することを楽しむ時期です。子ども達の言葉やしぐさ、表情などをしっかりと見取り、認め、更なる自信や心の成長につなげていきましょう。また、進学・進級に向けて、期待が大きく膨らむ大切な時期です。お家でも安心感や自尊心を高めていけるように、親子の時間を大切にしてください。

今年も園運営にご理解、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お正月遊びや冬の遊びを楽しもう

○かるたやこまなどのお正月遊びを通して文字や数量に興味をもち、日常生活に取り入れて遊びましょう。



○冬の自然現象に興味や関心をもち、北風の冷たさや吐く息の白さに気付いたり、池や水たまりに張った氷・雪・霜などを見付けたりして遊びましょう。

〔1月の生活習慣〕

○寒さに負けず、戸外で元気に遊びましょう。
○ポケットに手を入れないようにしましょう。
☆うがいは、**まず口の中でのブクブクうがい**、のどのガラガラうがいをするのが有効です。お家に帰ったら、必ずしましょう。
※自転車の乗り方が上手になって、こまをはずして乗る子もいることでしょう。乗り方や約束などをお子さんと十分話し合い、気を付けて乗りましょう。

お話で遊ぼう

1学期から毎日、様々な絵本に出会ってきました。子ども達はお話が大好きです。静かな冬に暖かい部屋で読んでもらうお話は、子ども達の心を動かし、お話の世界へと誘っていきます。お話の世界に想像力を膨らませ、ごっこ遊びを楽しみ、そして創作的活動である劇づくりを楽しみます。2月の発表会では、それぞれがクラスの友達と一緒に頑張っているところをご覧いただき、お子様の成長を実感し合い、喜び合いたいと思います。お家でもお話を読んでいただいたり、健康管理していただいたりするなど、子ども達を支えていただきますようお願いいたします。

○クラスの友達と共通の目的をもち、考えを出し合いながら、ごっこ遊びや劇づくりを楽しみましょう。

- ・お話の面白さを感じ、登場物になって、言葉や体で表現することを楽しむ。
- ・遊びに必要な道具を作ったり、思いを伝え合ったりして友達と分かり合って遊ぶ。

<家庭連絡>

☆寒さが厳しくなりますが、徒歩通園の方は8時45分から9時までの間に登園し、バスの方は必ず発車時刻までにバス停でお待ちください。天候により、バス道路が凍結・渋滞する場合があります。その日の状況によって休園したりバスが遅れたりする場合には、連絡アプリでお知らせします。

○住所やお仕事先等に変更がある場合は、速やかに担任にお知らせください。

○風邪やインフルエンザが大変流行しています。発熱や嘔吐、風邪症状のある場合は、無理をせず、ご家庭で休養してください。

○赤い羽根共同募金に子どもたちの優しい思いの詰まった、たくさんの募金が集まりました。神戸市私立幼稚園連盟須磨支部として区役所に持参いたしました。募金額は95,143円でした。ご協力いただき、本当にありがとうございました。

○施設関係者評価会(12月17日)ご報告

日頃より実習を通して本園の教育・保育を参観してくださっている神戸女子大学の幼児教育コースの先生方3名に本園の取組を評価していただきました。

1. 保育参観から

- ・子どもたちはいつも元気！生き生きとした表情が印象的です。
- ・広い園庭を生かして、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿が印象に残ります。低年齢児に対して保育者が温かく接していると思います。

2. 本園の教育・保育目標及び努力目標について

- ・どちらの目標も大変よいと思います。特に幼い頃から相手の顔を見て一旦自身の動きを止めて返事をする習慣が身に付くことは意義深いと考えます。
- ・「主体的に行動する子どもを目指して」が実現されているのではないのでしょうか。園長先生が「先生たちがやってみたいことを大切にしている」とおっしゃっていたのが印象的です。園長先生の担任の先生たちへの姿勢が、教諭から子どもへの姿勢へとつながっているのだと思います。
- ・保育者や大人が率先して行動で示すことが大切です。

3. 保護者アンケート(7月実施)及び自己評価(11月実施)

- ・親子共に園が大好きな様子がよく伝わってきました。一層保育の充実を図るには、ありのままの厳しい意見もしっかり受け止める姿勢が大事だと思います。
- ・保育の意図をきちんと保護者に向けて発信していることで、保護者も幼児教育の意図をくみ取り、正しく評価されていると思います。子どもが幼稚園に行きたい、楽しいということが何よりの評価なのではないのでしょうか。
- ・概ねアンケートの結果から「保護者は安心して幼稚園に子どもを託している」、先生方の努力の結果です。